

(行政視察)・政務活動・議員研修) 報告書

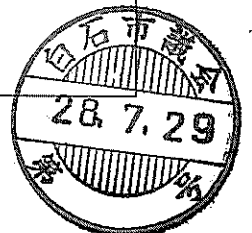
平成 28 年 7 月 29 日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 保科善一郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成 28 年 7 月 13 日 (水) ~ 7 月 15 日 (金)
調査・研修先	① 神奈川県 海老名市 (7 月 13 日) ② 長野県 塩尻市 (7 月 14 日) ③ 長野県 上田市 (7 月 15 日)
調査事項 (研修事項) 対応者・講師等	神奈川県 海老名市 (7 月 13 日) 「スマートフォンによる観光情報提供事業」について 海老名市商工課長 中込明宏氏他
概 要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察(感想、 課題、政策提言 等)	① 「えびな元気にぎわい検討会」において市内を回遊する施策の検討をした結果スマートフォンアプリの導入を決め平成 27 年 10 月 1 日から配信を開始している。本アプリは観光用だけでなく、防災用の機能も備えている。 ② アプリの機能「にぎわいナビ機能」として各種スポット検索や目的地までのルート案内など約 1,000 件のアプリを登録している。 ③ 導入費用は 990 万円で「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)を活用している。 ④ 今後の課題として「ダウンロード数を増やしていくこと」「掲載情報を最新のものに保つ」ことなどを挙げている。 ⑤ 地域資源を発掘し磨きをかけ、回遊促進を図り交流人口の増大を図ろうとしている。 (所感) スマートフォンを活用した積極的な事業と評価できる。



<p>調査事項 (研修事項) 対応者・講師等</p>	<p>神奈川県 海老名市 (7月13日) 「総合窓口の導入と民間委託の取り組み」について 総合サービス課課長 松崎進氏他</p>
<p>概要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察(感想、 課題、政策提言 等)</p>	<p>① 海老名市の人口増加や市民ニーズの変化等に伴い待合スペースの不足、混雑、バリアフリー化、わかりにくい案内等の課題の解決策として待合スペース拡充、手続きのワンストップ化推進、事務室分離、案内の改善を目指している。</p> <p>② 総合窓口開設までの経過：関係部署およびコンサルティング委託業者で検討会議(約7か月)を開催H24年GW中に改修工事实施し平成24年5月7日から運用開始している。</p> <p>③ 予算内容：コンサルティング委託 約4,100万円 什器・備品購入 約7,200万円 建築・工事等 約1,700万円</p> <p>④ 総合窓口のポイント 市民総合窓口と福祉総合窓口にエリアを分け出来るだけワンストップで対応するとしている。</p> <p>⑤ 現在の運営状況 満足度アンケート調査(挨拶、身だしなみ、待ち時間等)の結果としている。全体評価が高いとしている。</p> <p>⑥ 総合窓口業務委託について さらなる市民サービスの向上と効率化を目指し総合窓口業務の民間委託へタイムスケジュールを作成して進めている。また市職員の人数及び予算についても削減が進んでいる。</p> <p>(所感) 総合窓口の民間委託については、課題もあるが利点、欠点を理解して対処すれば所期の目的は達成出来ると思われる。</p>

<p>調査事項 (研修事項) 対応者・講師等</p>	<p>長野県 塩尻市 (7月14日) センサーネットワークによる鳥獣被害対策について 情報政策課 課長 金子春雄氏</p>
<p>概要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察(感想、 課題、政策提言 等)</p>	<p>① 塩尻市が取り組んできた情報化施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1996年 市独自ICT事業塩尻インターネット接続機構を地元IT企業・個人と一緒にオープンソースで展開 ・2000年 情報拠点・光ファイバー網設置(総延長130km) ・2006年 世界一のアドホック無線ネットワーク ・2012.2013年 情報の見える化(総務省ICT街づくり推進事業) <p>※鳥獣対策はこれらの一つとして大きな成果をあげている。</p> <p>② ICTを活用した鳥獣害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域は塩尻市北小野地区(緩やかな溪谷に囲まれた地域) ・平成23年度からセンサーネットワークを活用したイノシシ被害対策に着手している。 <p>③ 対策の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕地面積27.5ha(典型的な中山間地農地) ・区民一団となった対策: 「電気柵の不採用」「トラロープ・金網による侵入防御」「ICT機器による獣出没情報の把握」 ・タイミングを得た追い払いと効率の良い罠による捕獲 ・平成25年度(対策2年目)被害耕地面積:0%、若干の侵入はあったが収穫量には、影響なかったとしている。 <p style="text-align: center;">〈獣検知センサーの特徴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱で昼夜感知可能 ・イノシシを感知すると点滅する光で追い払う ・感知するとセンサーネットワークで登録者に携帯メールで通知 <p>④ 対策の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは被害の結果だけが見えていて耕作意欲が喪失していた ・出没センサーで鳥獣の動きがわかってきたため前向きになってきた。 <p>⑤ 成功のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域一体で参加している。 ・出現時に地域総出で追い払い実行 <p>(所感) 見事な成功例を視察出来たが光ファイバー網などの設置が条件となり基盤整備が重要と思う。</p>

<p>調査事項 (研修事項) 対応者・講師等</p>	<p>長野県 上田市 (7月15日) NHK大河ドラマ真田丸を活用した観光事業の取り組み 上田市商工観光部観光課長 近藤 聖一氏他</p>
<p>概要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察(感想、 課題、政策提言 等)</p>	<p>(平成27年度真田丸関連事業)</p> <p>(1) 上田市が実施する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光関連事業：観光会館の改修、観光PR活動、観光ガイド養成等 ・上田城跡公園及び周辺整備事業：施設改修等 ・真田地域関連事業：真田ゆかりの地施設整備、循環バス運行等 ・中心市街地関連事業：中心市街地におけるトイレ、案内看板等の整備等 ・文化関連事業：サントミュージゼ開催の展覧会・公演、ガイドブック製作 ・その他：市民会館改修費、真田丸プロモーション事業他 <p>(2) 大河ドラマ「真田丸」上田市推進協議会の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 平成26年8月29日～平成29年3月31日 ・構成メンバー 上田市、上田市議会、長野県、商工団体、地域団体、ゆかりの地61団体(白石市も含む) <p>① 大河ドラマ館建設・運営事業</p> <p>② 誘客促進事業(6つの重点項目)</p> <p>「情報発信」「誘客宣伝」「おもてなし体制整備」「大河ドラマ館イベント」 「商品開発」「広域連携」</p> <p>(所感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真田丸観光を機に交流人口の拡大と持続的観光振興を図る戦略が見える。 ・施設整備については、既存施設の有効活用を図っている

<p>調査事項 (研修事項) 対応者・講師等</p>	<p>長野県 上田市 (7月15日) 耕作放棄地対策事業としてのワイン用ブドウ団地、農産物直売所について 上田市農政課長補佐 真壁 章文氏他</p>
<p>概要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察(感想、 課題、政策提言 等)</p>	<p>(ワイン用ブドウ団地について)</p> <p>1. 事業導入経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上田市塩川地区にある陣場台地は年間降水量 900 ミリ以下と少なく干害を受けやすい地形である。以前は養蚕、薬用人参が栽培されたが価格低迷高齢化により農地約 25 haのほとんどが遊休荒廃地化していた。 ・ワイン用ブドウ栽培の導入：メルシャン株式会が世界水準の高級ワインづくりを目指し長野県内に自社農場としてワイン用ブドウ栽培をさがしていたところこの地が候補地となった。 <p>2. 事業の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産法人 ラ・ヴィニユの設立 株式会社の農業参入が農地法で規制されているため農業生産法人を設立し長野県農業開発公社を経由し農地を借り受け事業開始した。 ・ブドウ栽培用農地の造成 各種補助事業により平成 19 年度末で 21 haの造成が完了した。 ・ブドウ苗の栽培 平成 15 年～22 年にかけて約 7 万本が垣根栽培方式によりおこなわれた。品種はメルロー、シャルドネ等 6 種類を中心に栽培している。 <p>3. 今後の展望</p> <p>遊休荒廃地化した農地は広大なブドウ畑に生まれ変わった。この事業の成功は上田市に新たな魅力や経済的な効果を生み出し地域の産業や観光振興に寄与するものであり今後ワイナリーの誘致等により更なる地域の活性化に地域住民は大きな期待を寄せている。</p>

<p>概要</p> <p>①背景・目的</p> <p>②内容・特色</p> <p>③主な質疑</p> <p>④考察（感想、課題、政策提言等）</p>	<p>（農産物直売所について）</p> <p>1. 上田市丸子農産物直売加工センター（あさつゆ）の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設までの経過：平成13年1月生産者と農業関係機関が農産物直売施設研究委員会を立ち上げ設置を要望、平成15年町が建設委員会を設置同年秋より建設に入った。 ・施設竣工：平成16年5月20日 ・総事業費：1億6,300万円（土地購入費を含む） ・直売所の名称：あさつゆ（町内からの公募） ・施設の概要：全体面積551㎡、駐車場60台 ・運営主体：上田市丸子農産物直売加工施設運営組合（指定管理者） ・運営組合：組合員200名、委託会員60人 ・施設オープン：平成16年6月5日、年中無休（元旦～4日休） ・平成27年度実績：来客数（249,037人）販売額（3億2700万円） <p>2. 直売所の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所の売り上げデータが1時間おきにメール配信され、農産物の搬入に反映している。 ・薬品残渣の自主検査を実施し食品の安全安心に配慮している。 ・運営はすべて生産者の自主的運営となる。
--	---